

## I 学校の概要

思考力等の育成モデル校事業

## さぬき市立志度小学校

### ◆児童生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
3学級 85名	3学級 77名	3学級 94名	3学級 90名	3学級 86名	3学級 106名	3学級 9名	21学級 547名

○教員数 30名

### ◆学校の特徴

本校は、平賀源内生誕の地にあり、全校児童547名のさぬき市で最も大きな規模の学校である。今年度は、「学び・働き・元気な子どもを育てる」という教育目標のもと、『いつも、全力 プレイ!』を子どもと教師の合言葉にして知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。

昨年度まで道徳教育地域支援委託事業を受け、集団の中で自分を生かす力（自己有用感）を育てることを目指し、一昨年度作成した「志度っ子プラン」に基づいた道徳授業等の実践を積み重ねてきた。児童は、活躍の場や認められる機会が増えたことで、少しずつ自分に自信が持てるようになってきている。それが心の安定につながり、学ぼうとする意欲にも表れてきているととらえている。

## II 研究主題等

研究主題 知・徳・体の調和のとれた子どもを育てる

～思考力を育む対話的な学びづくり～

### ◆研究主題設定の理由

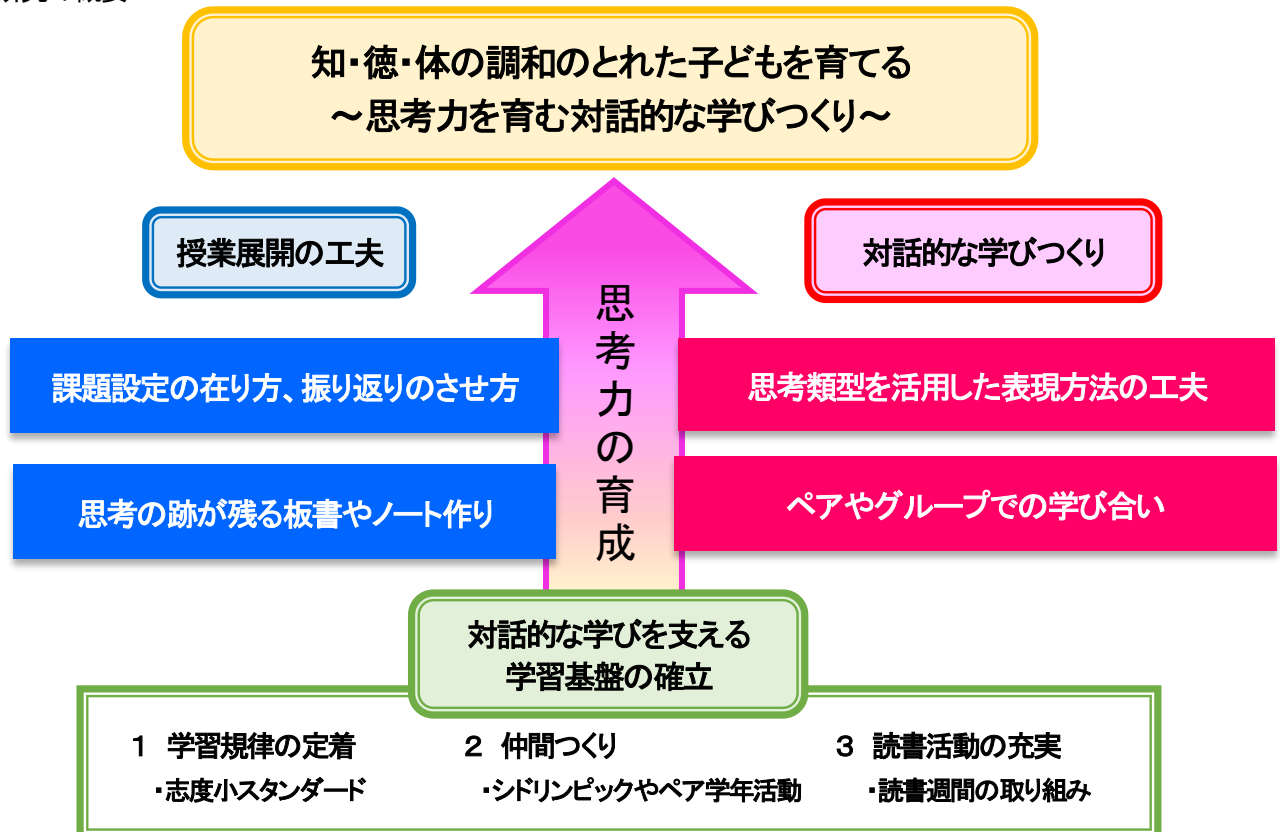
本校は、昨年度まで道徳教育地域支援委託事業を受け、「子どもの自尊感情を高める道徳教育」をテーマに、道徳教育の充実に取り組んできた。平成29年11月に実施した県学習状況調査の質問紙調査の設問「自分にはよいところがあると思いますか。」（自尊意識）で肯定的回答をした子どもの割合が、28年度と比べて7.5ポイント改善した。子どもたちは、活躍の場や認められる機会が増えたことで、少しずつ自分に自信が持てるようになってきており、これまでの研究成果が現れてきていると捉えている。一方、県学習状況調査各教科の平均正答率を見ると、算数は県平均並みであるが、国語や社会、理科では、県平均と比べて、約1～4ポイント下回っている。分析の結果、本校の児童は、文章を読み解く力や問われていることをもとに思考する力に課題があることが分かった。

そこで、今年度は、道徳教育の研究成果を生かしつつ、知・徳・体の調和のとれた子どもを育てたいと考え、本主題を設定した。特に、現職教育では授業改善に焦点を当て、言語活動を充実させることで対話的な学びをつくる方法を探りたい。そして、対話的な授業の積み上げから、思考力等を育てていきたい。

## ◆研究内容及び方法

- 1 思考力等を育む授業展開の工夫
  - (1) 課題設定の在り方や、振り返りのさせ方
    - ・「課題設定→見通し→学び合い→振り返り」を意識した授業展開
    - ・学びの価値を感じられる課題設定
    - ・自分の変容に気付く振り返りの時間の設定
  - (2) 思考の跡が残る板書やノート作り
    - ・思考の跡が残る構造的な板書やノート作りの工夫
- 2 対話的な学びをつくる交流活動の在り方
  - (1) 思考類型を活用した表現方法の工夫
    - ・思考の型を習得するスキル学習
    - ・思考類型カードや話型等の活用
  - (2) ペアやグループでの学び合いによる問題解決学習
    - ・学び合いの必要感を高める活動の工夫
    - ・学び合いを活性化させる形態の工夫
    - ・思考の深まりを可視化する表現方法の工夫
    - ・児童の考えをつなぐ発問の工夫
- 3 対話的な学びを支える学習基盤の確立
  - (1) 学習規律の定着
    - ・志度小スタンダードの共通実践
  - (2) 仲間づくり
    - ・シドリニックやペア学年での仲間づくり
  - (3) 読書活動の充実

## ◆研究の概要

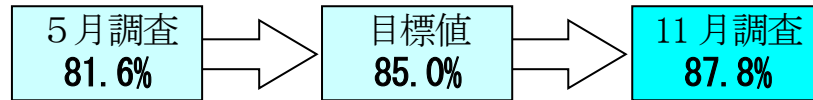


### III 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童質問紙) 授業の中で目標(めあて、ねらい)が示されていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



指標の達成に向けた実践

#### 思考力を育む授業展開の工夫

##### 1 課題設定の在り方や振り返りのさせ方

(1) 「課題設定→見通し→学び合い→振り返り」を意識した授業展開

思考力を育成するためには、授業の中で思考する場づくりが必要である。そこで、課題を設定し、見通しをもち、友達と学び合い、学習を振り返り、それが次の授業の課題につながるという授業展開を心がけた。問題解決型の授業が循環し、子どもが問題の発見・解決を繰り返す過程で多様な思考力を育むことができよう工夫した。



【問題解決型の学習サイクル】

(2) 学びの価値を感じられる課題設定

【出合わせ方の工夫】

学びにワクワク感を持ち、意欲が高まるように、出合わせ方や生活との関連付けを意識して、課題設定を行った。5年総合「学校のかくれたバリアフリーを見つけよう」では、校長先生からのビデオメッセージを活用した。児童の意識と学習内容にズレを作ることにより、「もしかしたらもっと工夫があるかも」という課題意識をもち、「校長先生みたいに他の学校と比べてみたらいいかも」という見通しを持たせ、課題解決への意欲を高めることができた。

(3) 自分の変容に気付く振り返りの時間の設定

【自分の頑張りを記号や点数で置き換える工夫】

「できた!」「やった!」と自信を深め、次への意欲が高まるように、児童の変容や伸びを自覚させることを意識して、振り返りを行った。4年特別支援学級では、振り返りの視点を明確にして、ホワイトボードに記述させた。できたことを整理し自覚することで自信を持ち、難しかったことを自覚することで「次こそは!」と次時の学習へ意欲をつなげることができた。また、5年総合では、自分の頑張りを記号や数字に置き換える工夫をすることで、自分の変容や伸びを客観的に捉えることができた。

2 (教員) 児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。

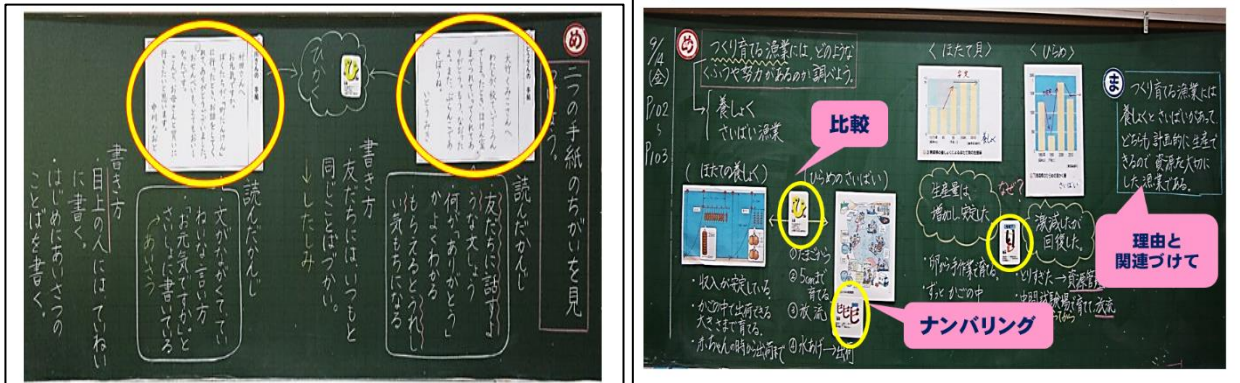
指標 「①よく行っている」の合計



指標の達成に向けた実践

思考力を育む授業展開の工夫

2 思考の跡が残る板書やノート作り

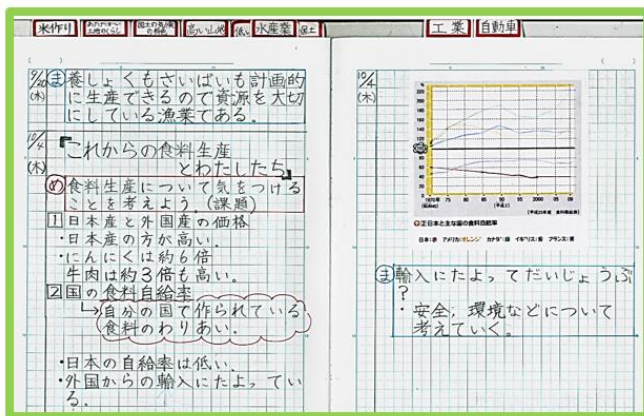


【2年国語科『ありがとう』をつたえよう』の板書】

【5年社会科『これからの食料生産』の板書】

思考力を育むためには、板書やノートを通して、授業の流れや思考の流れを可視化することで、学習内容や思考過程を視覚に訴えて理解させることが必要である。

2年国語科では、「比較」カードを提示し、友人と目上の人に送る手紙を右と左に分けて板書した。思考類型カードを提示し、左右に分けて書くことで、思考法を意識しながら書き方の違いを理解することができた。5年社会科では、「順序」「比較」「理由」カードを提示して、順序に気を付けて資料や表を読み取ったり、何が違うのかを比較したりした。板書を工夫することで、つくり育てる漁業の特色を理由付けしながら考えることができた。



【5年社会科のノート例】

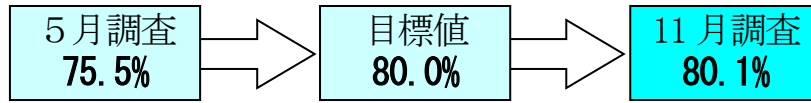
児童のノートから

- ★ 板書を見ながら、自分の言葉でまとめたり、矢印を使ったりしながらノートにまとめて書いている。
- ★ キーワードは、赤で囲むなどして分かりやすくしている。
- ★ 振り返りがしやすいように、インデックスをつけて、めくりやすいようにしている。

ノートの書き方の基本を学校で統一し、(め) (めあて) (自) (自分の考え) (友) (友だちの考え) (ま) (まとめ) 等を記号化することで、学習の積み重ねができるようにした。また、矢印を使って図式化したり、キーワードを赤で囲んだりすることで、考えを整理し、思考の跡がノートに分かりやすく残るようにした。さらに、後で振り返りがしやすいようにインデックスをつけることで、ノート作りを楽しんでいる児童も増えてきた。

### 3 (児童質問紙) 友達と話し合う活動の中で自分の考えを言えていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



#### 指標の達成に向けた実践

#### 対話的な学びをつくる交流活動の在り方

#### 1 思考類型を活用した表現方法の工夫

#### (1) 思考の型を習得するスキル学習

6つの関係づける力 神戸親和女子大 櫻本明美氏

比較		順序		推理	
類別		定義		理由	

論理的な話型を使って、すっきりとした分かりやすい発言ができるようにすることで、論理的に思考する力を身に付けさせようと考えた。6つの話型を設定して、子どもに分かりやすく親しみのあるキャラクターを作り、授業や日記指導等で活用して思考法を児童に意識付けた。

話型は自然には身に付かないため、ことば遊びシートを活用し、思考の型を習得するスキル学習に取り組んだ。ことば遊びシートは、低・中・高学年用があり、右の資料は中学年の「もしもの力(推理)」を付けるためのシートである。もしも〇〇だけで終わらせず、その後に理由を書くようにした。また、裏面では、6種類のお題から自分が好きなお題一つ選び、もしも作文を書いた。発達段階に合わせて作成されているので、無理なく楽しみながら取り組み、話型を習得することができた。

ことば遊びシート 中学年(もしもの力)

#### (2) 思考類型カードや話型の活用

【日記での話型の活用例】

朝のスピーチ お題

- 好きな遊びとその理由
- 和と洋(食べ物)
- 遊びのグループ分け
- もしも「どこでもドア」があれば
- クラブでしたこと
- 文房具とは

スピーチのお題

話型カード

論理的思考キャラクターサイコロ

【朝のスピーチでの話型の活用例】

話型に親しめるように、授業だけでなく日記指導や朝のスピーチにも思考類型カードや話型を活用した。日記で話型が使えているところに、思考キャラクターシールを貼ることで、もっと使ってみようという意欲を高めることができた。朝のスピーチでは、サイコロトーキングの話型版を作り、サイコロを振って出たお題に合わせて話型を使ったスピーチを行った。教具を工夫することで、話型を使ったスピーチにも楽しく取り組めた。

4 (児童質問紙) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできている」の合計

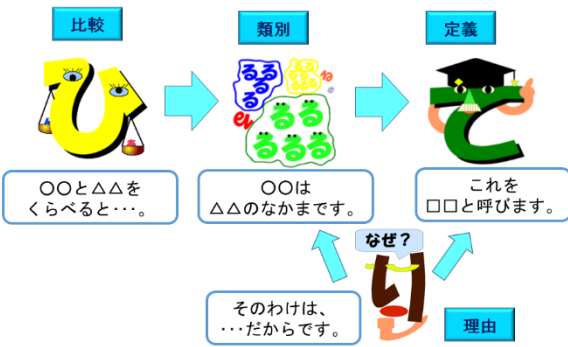
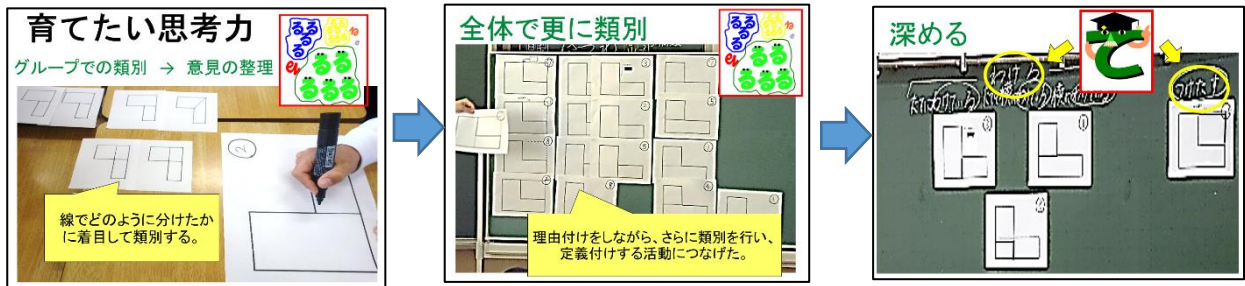


指標の達成に向けた実践

対話的な学びをつくる交流活動の在り方

2 ペアやグループでの学び合いによる問題解決学習

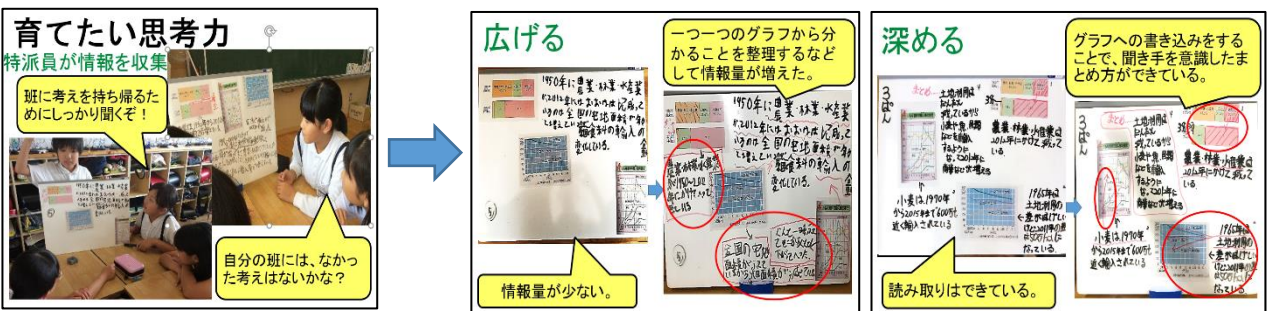
【4年 算数科「面積」】～思考類型の活用～



上の図のような思考の流れで授業を展開した。はじめに、グループで個々の考えを並べ、どのように考えれば複合図形の面積が求められるかということを類別した。次に、グループでまとめた意見を全体場で出し合い、理由付けしながら4つの考えに類別した。そして、その類別されたものに名前を付けて定義付けした。

児童は、「分けたり」「付け足したり」して正方形や長方形にすることで複雑な図形の面積を求められることに気付くことができた。

【5年 社会科「これからの食糧生産とわたしたち」】～形態の工夫～



5年社会科では、一人一人に役割と出番が生まれるように特派員制度を活用することで、「自分が情報を正しく理解して伝えなければ」という責任感が生まれ、話し合いが活性化した。また、他の班からの説明を自分の班の考えと比較して聞くことで、より優れた考えを取り入れることができた。特派員制度により、資料の見方や関連付けが変容し、班での話し合いで考えをさらに広げたり深めたりすることができた。

## ◆特徴的な取組

### 対話的な学びを支える学習基盤の確立～仲間づくり～

対話的な学びを行うためには、相手の考えを認める受容的な雰囲気づくりや仲間づくりが大切であると考え、クラスや全校生の心を一つにする取組を行った。

#### (1) シドリニック

1年生から6年生までのクラスが学年を超えて縦割り班で、様々な競技で競い合うクラスマッチである。春季、夏季、秋季、冬季の4回に分けて競い合う。そして成績をまとめて、年間の総合優勝が決まる。

#### (2) ハートフルマラソン

全校生と全教職員、志度小学校の全員が1本のバトンをつないで42.195kmをリレーした。「がんばれ、がんばれ〇〇」と高校生に教えてもらった応援で、お互いに応援し合うことで頑張る元気がわき、目標タイム2時間30分の達成に向けて全員の気持ちが一つになった。



【シドリニックの種目】

【ハートフルマラソンと応援の様子】

## IV 研究の成果と課題

### 【成果】

〈授業展開の工夫〉

- 児童・教師ともに“思考する”とはどういうことかを具体的にイメージしながら学習に取り組めるようになった。
- 課題設定・振り返りを工夫することで意欲化を図り、主体的に問題解決ができた。
- 板書を構造化したり、可視化したり、学び合いボードに子どもの考えを表したりして理解が深まり、学び合いをスムーズに進めることができた。
- 板書やノートは、思考を整理したり、促したりする重要な役割があることを教員が再認識することができた。

〈対話的な学びをつくる交流活動の在り方〉

- 思考類型カードや話型を継続的に活用することで、思考を深める方法が多様にあることを児童に意識付けることができた。6つの思考（比較・順序・推理・類別・定義・理由）を使って考えを広げたり深めたりする習慣が身に付いてきた。
- 活動内容や形態を工夫することで、話し合いの中で自分の考えを言える児童が増えてきた。

### 【課題】

- ▼ 1単位時間の授業改善という枠を超えて、単元や題材のまとまりの中で「習得・探究・活用」という学習サイクルの確立を目指していく。
- ▼ ペア・グループでの考えを全体への学び合いにどのように広げ、まとめていくのかについて、よりよい方法を探る。
- ▼ 対話的な学びづくりのために、個の基礎学力の定着を図る取組が重要である。